



平成31年度 施政方針

「四国のまんなか 人がまんなか 人を結ぶ 心を結ぶ あったか協働都市」を目指して



篠原 実 市長

平成31年第1回四国中央市議会定例会が2月26日から3月25日まで開かれ、篠原実市長が施政方針演説を行い、平成31年度に取り組む重要施策について述べました。
その概要をお知らせします。

【重要施策】

○東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」
4月20日から11月24日までの219日間にわたり、愛媛県と東予東部の3市並びに関係団体などが連携し開催します。5月には臨海部の工場を舞台にした「ものづくり物語」、9月には嶺南の山や湖を楽しむ「山の物語」、11月には紙にスポットを当てた「紙の物語」のほか、住民や企業・団体の皆さまが実施する催しも市内各所で開催されます。本市のにぎわいの創出と観光客の誘致につながる絶好の機会と捉え取り組みます。

○自然災害への対策

平成23年の東日本大震災以降、近年においても熊本県や大阪府、北海道などで大規模な地震が発生しています。また昨年には、本県を始め西日本各地を襲った平成30年7月豪雨などの局地的大雨による災害も全国各地で起こっています。将来起こり得る自然災害や南海トラフ巨大地震に備え、本市の防災力の強化を図るため、自主防災組織連絡協議会を中心とした自主防災組織の活性化や防災士の育成に努めるとともに、南海トラフ地震を想定した災害対応訓練に加え、市内の関係団体や災害時の支援協定を締結している団体などとの連携を強化します。



▲自主防災組織連絡協議会設立時の様子

○拠点施設の整備

新庁舎建設事業については、昨年の9月18日から新庁舎での業務を開始しており、9月の完成に向け立体駐車場の整備を進めます。

また、愛称が「しこちゅ〜ホール」に決定した市民文化ホールについては、順調に工事が進んでおり、8月23日の開館に向けて、記念式典やこけら落とし公演などの事業計画を検討しています。決まりしだい、年間事業スケジュールを市民の皆さまにお知らせしたいと考えています。



▲8/23にオープンする市民文化ホール「しこちゅ〜ホール」

公民館については今後、金生公民館を始め、公共施設等総合管理計画に基づき整備を進めます。



▲金生公民館完成予想図

○川之江地区まちづくり事業

これまでに歴史考古博物館や川之江ふれあい交流センターなどの整備を行ってきました。今後は、市民会館川之江会館、考古資料館、港通りアパートを解体し、その跡地に川之江ふれあい交流センターター広場を整備するなど、事業の総仕上げを図ります。



▲川之江ふれあい交流センター広場（右側）完成予想図



▲H32春にリニューアルオープン予定の歴史考古博物館

○地域産業の振興

本市初となる、内陸型工業団地の形成に向けた津根工業団地造成事業については、地域の皆さまを始め地権者、関

○子育て・教育環境の充実

東部学校給食センターは、2学期からの利用開始に向けて準備を進めており、当施設では、三島地域の小中学校及び幼稚園に約3200食の給食を提供していく予定です。見学スペースや移動調理台を

備えた研修室を設置するなど、食育の推進も併せて図っていきます。



▲完成した東部学校給食センター（三島中央1丁目）

また、小中学校の空調設備の整備については、全小中学校の普通教室及び特別教室などを対象に実施することとしており、中学校は今年の夏、また小学校は年度末までの完成を目指します。併せて学校施設内の安全性が確認できないブロック塀についても、年度内の整備完了を目指しており、児童生徒の安心安全で快適な学習環境の整備を進めます。

さらに、県立新居浜特別支援学校分校については、再来年4月に三島小学校の東校舎内に同校の分校を設置することが決定しました。施設改修

などを段階的に進めながら、分校開設に向けた諸準備を進めます。



▲特別支援学校分校設置のため改修される三島小東校舎

また、導入に向けて協議を重ねてきましたコミュニティ・スクールについては、5校からモデル校指定の希望がありましたので、これらの学校をモデル校として、4月から実践的な研究を行ったうえで、再来年度の正式導入を目指しています。今後とも学校と保護者、地域社会が連携して子どもを育成していく当制度の拡充に取り組めます。

本市初の公立の認定こども園となる土居東こども園の開園に続き、川之江地区の川之江認定こども園も来年4月の開園に向けて建設工事に着手

しています。



▲土居東こども園4月に開園（土居町津根）

また、新年度に着手する第2期子ども・子育て支援事業計画については、10月から開始予定の幼児保育・教育の無償化や深刻化する保育士や放課後児童クラブの支援員不足などの影響も考慮し、今後5年間の子育て環境の方向性や、児童福祉施設の整備方針などについて示したいと考えています。

○安全・安心の確保

当地域の課題でありました中核病院の建設については、公立学校共済組合から2025年を目途とした建設の方針が示された後、建設候補地について、三島医療センターの場所を第一候補地と

するとの回答をいただきました。今後は、できるだけ早期に、医療関係者などの参加による協議会が設置され、地域医療の充実や中核病院などのあり方について協議が行われるよう支援を行います。一刻も早く建設されることを願う、できる限り努力していきます。

さらに、高齢者福祉施策では、現在の見守り推進員制度に加え、地域住民や介護サービス事業者のほか、宅配業者などと連携した新たな見守り体制の構築を図ります。また、薄れつつある家族の絆を大切に、地域社会に貢献している家族や、子育て・介護を行っている家族などの中で、地域に親しまれ、尊ばれる家族に対して表彰を行う「あったか家族応援大賞」を創設します。当制度により、地域貢献活動の推進、また家族の絆の重要性を考えていただくきっかけになれば、大変ありがたいと考えています。

【むすび】

新年度は第二次四国中央市総合計画後期基本計画期間の初年度を迎えます。市が直面する課題や多様化する市民ニーズに応えながら、本市の将来像の実現に向けたまちづくりを進めてまいりますので、市民の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

